

沖縄東女子初優勝

ハンドボール

24日・豊見城市民体育館

安神	▽準決勝	神	森	30	1713
慶田	▽決勝	沖	繩	25	17
田森		東	森	24	22
2635		浦	浦	22	22
2322		西	西	16	10
浦浦		沖	繩	26	16
		東	森	14	14
		浦	浦	22	22
		神	森	18	18
		安	慶	18	18
		慶	田		



沖縄東 神森 前半、ボールを奪い合う沖縄東の仲座ひまり(左)
 24日、豊見城市民体育館(又吉屋秀撮影)

両バック、連係で存在感

シーズンゲームとなった序盤を終えて沖縄東が10-8とリード。しかし後半、神森にミスが突かれて点差を詰められた。それでも「冷静でい続けた」(松川桜和音主将)チームは、昨年覇者との熱戦を26-22で制して初の優勝旗を手にした。

両バックの仲座ひまり(3年)と伊良波奈々(同)が、連携プレーも発揮しながら存在感を示した。この日一番のポイントゲッターは右45で左利きの仲座。「自分のプレーを出す」と15-5ながら相手守備をかき乱し、得意のサイドシュートを放った。

バックルーム
 視野も広く、フリーの左サイドにボールを振るなどアシストも光った。左45の伊良波は「距離をつくって攻めるよう意識」し、バックステップで準備し、パスに合わせて走り込んでカットイン。168センチの上背を生かしたロングシュートも放つなどの絡み合いが多岐にわたる攻撃で守備を崩した。

GK比嘉琉愛の体を張った好セーブも光った。逆速攻やサイドシュートを止めるなど、勝利に貢献した。

赴任して4年で優勝までの道筋をつかった平良徳彦監督が不在の中、指揮を執ったのは花木瑠美副顧問だ。「ほっとしている」と初優勝に安堵(あんど)の表情を見せた。

(名波一樹)



優勝した沖縄東



男子優勝の神森

神森(男子)27度目頂点

堅守から多彩な攻撃展開

○：前半、安慶田に一時後半は堅い守備から多彩な度目の頂点に立った。リードを許した神森だが、一攻撃を展開し、3年連続27-13から始まった後半



神森 安慶田 前半、ゴールを決める神森の内閣想太

戦。内閣想太(3年)がミドルシュートのフレイントからカットインし、勝ち越しの1点を奪った。チームは勢いに乗り、連続得点。内閣は「自分が決める」と巧みな個人技を駆使して勝負どころで豪快なシュートをたたき込むなど、計り得点の活躍を見た。

ワンプレーで魅せたのは、中学2年の10月に入部した元バレー部の亀川愛留(3年)だ。跳躍力を武器に、フリースローライン付近で両足ジャンプ。虚を突くロングシュートで30点目を決め、会場を沸かせた。

主将の金城藍希(3年)は「前半は相手エースに当たっていたが、後半はカバリーを意識した」と勝負を振り返った。チームは全国制覇を見据え、九州に挑む。

(名波一樹)

©琉球新報 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します